
ギターとベースとドラムと歌と

TAKERU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ギターとベースとドラムと歌と

【Nコード】

N3577Q

【作者名】

TAKERU

【あらすじ】

今回の小説は『未来の果てのさらに向こう』の合間を縫って書いてる自己満足小説ですw

バンド！

“ドツ！ドツ！ドツドツ！”

俺の部屋は、いつも重低音が響いている。

ご近所さん達の間、俺は超有名だ。
ちなみにこれは、いい意味ではない。

近所迷惑？ハツ、俺はそんなの知らねえ。
好きなことをして何が悪い。

これが俺の哲学であり生きる意味だ。
・・・流星流星がにそれは、言いすぎた。

俺は音楽が大好きだ。

Rockが大好きだ。

日本のバンドは素晴らしい。

俺の名前は灰土灰土たける猛。

高校2年生だ。

友達からは“ハイド” “たける”と呼ばれている。

そして俺の好きなバンドは【L、Arc en Cielラルクアンシエル】だ。

理由は俺の名字が灰土だからだ。

テレビでラルクのVのhydeハイドが出ていて、かっこいいと思ったからだ。

ライブにも何度か行った。

あの時の、熱気と楽器の音・・・hydeの歌・・・。
全てが鮮明に脳裏に焼き付いている。

そして俺は今ギターを練習している。
もちろん歌もだ。

俺もあの時のような場所で音楽がしたい。

そう思い今年の夏、念願のギターを手に入れた。

高校生最後の思い出として、バンドを組み学園祭に出たい。

あの時と同じ熱気があるとは思わない。だがバンドメンバーと
一つの音を奏でる・・・。

時間は高3の学園祭・・・後1年しかない。

絶対に俺は高校最後の学園祭で華を咲かすのだ。

だが一つ問題がある。

バンドメンバーがいないのだ。

ギター&V.Oの俺だけ・・・。

これではダメだ。

バンドメンバーを集めなければ・・・。

だがどうやって集める？

とりあえず明日から学校だ。

学校でメンバーを集めよう。

久しぶりの学校だ・・・。
なんかちよっと変な感じがすると思ったら、
夏休み前は無かったモノがあった。

耐震補強工事たいしんほきょうこうじをしていた。

まあ、そんなどうでもいいことは置いてこつ。
とりあえず教室に行こつ。

“ガラッ”

勢いよくドアを開ける。

『よー！ハイドロー！』

『よう、たける。』

俺に挨拶をしたのは2 3人だった。

聞く噂によると、俺は皆から不良と思われているらしい。
それは恐らく俺の、この服装にある。

俺の学校の制服は学ランなのだが、
俺は学ランの下にバンドティーシャツを着ているからだ。
外国のバンドで柄が物凄く派手だ。
それとたまに私服で来るからか？
あと髪が金髪だから・・・だがこれは自毛じけなのだ。

俺はアメリカ人と日本人のハーフだ。
だから髪が金髪、だが皆には少し誤解されているようだ。

とりあえず俺は気付いた。

この状況では学校でバンドメンバーは集められない。
とりあえず相談してみるか。

「なあ。」

「なんだ？」

こいつは俺の数少ない友達だ。

「バンドメンバーどうやったたら集められる？」

「バンドメンバー？」

「ああ、学校では無理っぽいからさ。」

「んー、よくわからねえけど、ネットで探したら？」

「ネット、わかった。帰ったらそういう系のサイト探してみるよ。
ありがとな。」

5

ネットか……。出来るだけ早いとこメンバーを集めたいしな……。
今は1時間目……。時間は無駄にしたくない。
たまには不良らしいこともしてみるか。

「なあ、パソコン室ってどこだっけ？」

「パソコン室？パソコン室ならB棟の2階にあるぜ。」

「そうか、ありがとな。」

授業をサボるのは不良の特権……。不良と思われるなら、
その特権を利用するほかない。

“ ガラッ ”

教室を出る俺の背中に、皆の冷たい視線が刺さる。

だがそんなことは気にせず、俺はB棟に向かった。

“ガラッ”

パソコン室の鍵は開いていた。

「よし…。」

“ウゝウゝ”

俺が一番奥のパソコンの電源をつけた。

ファンの音が静かな、パソコン室に響く。

此処のパソコン室はパソコンが10台しかない。

だから授業でパソコンを使うときは、二人一つで使っていた。しかもこのパソコンは性能が悪い。

点くのに10分もかかる。

「やっとなんて点いたか…。」

なんて検索したらいいんだろう…。

「とりあえず、バンドメンバー募集…っど。」

“カタ カタッ”

バンドメンバー募集掲示板…。

「此処でいいか。」

…名前と説明か…。

「名前はたけるでいいか。」

説明か…どうしようか…。」

とにかく、ロックがしたいんだよな…。

とりあえず、ベースとドラムとキーボードは欲しいな。
ジャンルはロック……。

バンド名は、まだ決まってるから未詳……っと。

コメントは……、『初心者歓迎です。ベースとドラムとキーボードを募集してます。』

……こんなもんでいいのか？

まあいい。

これではメンバーが集まるのを待つだけだ。

今は……、10時か……。

今日はサボろうかな……。

楽器屋にでも行こうか。

楽器屋は何時来ても飽きない。

たくさんの、楽器や機材が置いていて最高だ。

「エフェクターだ……。」

俺の目を、一つのエフェクターが惹いた。
14000円・・・少々高いけど欲しい。

俺は迷わずレジに向かった。

エフェクターの他にも、ピック2枚と替えの弦を買った。

財布が一気に氷河期を迎えたが気にしない。

帰り道、路上ライブをしていた。

若い男、4人組だった。

俺も早く、路上ライブとかをしてみたい・・・。

早く家に帰ってPCを見てみよう。

家に着いた俺はすぐさまPCを起動させた。

「・・・！」

書き込みが一つあった！

「マジかよ・・・。」

.....

名前 種城 龍

コメント

『ベース希望です！そこそこ演奏はできます。
バンドに入れてください！』

ベース希望者・・・。

オイ、まだ書き込んで2時間半だぜ・・・。

『書き込みありがとうございます。』

歓迎です！バンドに入ってください！』

よし・・・あとはドラムとキーボードだ・・・。

「よし！練習だ！もっとギター上達しねえと！」

バンド！（後書き）

なんか最後終わり方変ですねw
アドバイスくれたらうれしいです^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3577q/>

ギターとベースとドラムと歌と

2011年1月28日08時52分発行